

総合人間科学 法 学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	1 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	2 人	

2 教員の異動状況

大磯 義一郎（教授）（平成 24.4～現職）

福原 正和（特任研究員）（平成 27 年 4 月 1 日～12 月 31 日）

白川 康一（特任研究員）（平成 28 年 2 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.88	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大磯義一郎 : インフォームド・コンセントと医療安全. 日本精神科病院協会雑誌Vol.34, No.4: 69-74. 2015
2. 大磯義一郎 : 診療ガイドラインと医療紛争. 腎臓予防医誌 vol23 .No1: 38-42, 2015
3. 大磯義一郎 : 診療ガイドラインと事故調査. 関節外科 vol34 .No12: 8-14, 2015
4. 大磯義一郎 : 医療事故調査制度における注意点. 東京都医師会雑誌Vol.69, No.3: 49-53. 2016

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nakata Y, Watanabe Y, Otake H, Nakamura T, Oiso G, Sawa T: The Japanese Surgical Reimbursement System Fails to Reflect Resource Utilization. Int J Health Serv. 2015;45(4):801-9 2015 May 19

インパクトファクターの小計 [0.881]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 大磯義一郎等監修 : 公衆衛生がみえる 2016-2017 第2版 ※加筆修正 MEDIC MEDIA 2015 年6月
2. 大磯義一郎等監修 : 医療白書 2015-2016 年版 日本医療企画 2015 年8月
3. 大磯義一郎等監修 : レビューブック公衆衛生 2016 MEDIC MEDIA 2015 年10月
4. 斎藤恵 : 医療事故調査制度対応マニュアル 日経 BP 社 2015 年11月
5. 一般財団法人医療法人協会監修 : Q&A 医療事故調ガイドブック 中外医学社 2016 年1月

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 27 年度	
(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)	1 件	(110 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	1 件	(827 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)

文部科学省、学術振興会科研費、医療訴訟判決の解析に基づく診療科別・疾患別医療安全工学的対応策の検討、平成 25 年—27 年、110 万円 (平成 27 年度)

(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成

国立研究開発法人科学技術振興機構、未病に取り組む多世代共創社会の形成と有効性検証、平成 26—29 年、827 万円 (平成 27 年度)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	10 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	46 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

- 2016 年、3 月、医療法学研究会第 6 回医療法学シンポジウム、於早稲田大学大隈講堂

2) 学会における特別講演・招待講演

- 2015 年 5 月 第 13 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会 「有害事象報告制度」
- 2015 年 5 月 医療安全マネジメント学会、「有害事象報告制度」
- 2015 年 5 月 老年泌尿器科学会、「高齢者医療における QOL の追求と SOL の諸問題」
- 2015 年 6 月 国立大学医療安全管理協議会総会、「医療事故調査制度の開始に向けて」
- 2015 年 6 月 国公立大学附属病院医療安全セミナー、「医療模擬裁判～医療裁判を体験する～」

6. 2015 年 10 月 医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム
7. 2015 年 11 月 第 10 回医療の質・安全学会学術集会 「ウログラフィン脊髄腔誤投与について～院内事故調査・報告書、刑事訴追の問題について～」
8. 2016 年 1 月 横浜市精神科医会学術講演会、「医療法学のすすめ～精神科医が知っておくべき法知識～」
9. 2016 年 1 月 岡山県臨床整形外科医会、「診断書作成における法的検討課題」
10. 2016 年 3 月 第 18 回浜松医科大学シンポジウム、「多種情報媒体間の風疹情報拡散における時間差に関する分析」

3) シンポジウム発表

1. 2015 年、4 月、講演、「医療事故調査制度に向けての実務上の注意点とその対策」、昭和大学、於昭和大学病院
2. 2015 年、5 月、講演、「医療事故調査制度について」、熊本市医師会、於熊本市医師会
3. 2015 年、5 月、講演、「個人情報保護法（各論）」於浜松医療センター
4. 2015 年、6 月、講演、「医療者の人権保護から見た医療事故調査制度の問題点」、於聖隷沼津病院
5. 2015 年、7 月、講演、「医療安全推進について」、富山大学、於富山大学医薬イノベーションセンター 日医工オーディトリウム
6. 2015 年、7 月、講演、「医療事故調査制度にどのように臨むべきか」、千葉県保険医協会、於千葉県保険医協会会議室
7. 2015 年、7 月、講演、「新医療事故調査制度について」於静岡県立総合病院 循環器病センター
8. 2015 年、7 月、講演、「医療事故調査制度における注意点」、於磐田市立総合病院
9. 2015 年、7 月、講演、「インフォームドコンセント再考」、相模原市医師会、於ウェルネスさがみはら
10. 2015 年、7 月、講演、「医療事故調査制度の実務上の課題」、宮城県医師会、於 TKP ガーデンシティ仙台
11. 2015 年、7 月、講演、「医療事故調査制度の概要と各病院における準備」、横浜市立病院安全管理者会議、於横浜市技能文化会館
12. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度に関する特別講演」、損保ジャパン、於新潟セントラルビル
13. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度に関する特別講演」、損保ジャパン、於日本興亜札幌ビル
14. 2015 年、8 月、講演、「医療法・インフォームドコンセント」、中濃厚生病院、於中濃研修医センター
15. 2015 年、8 月、講演、「医療従事者に求められる守秘義務」、日本精神看護協会、於日本精神科看護協会 東京研修会場
16. 2015 年、8 月、講演、「10 月から始まる医療事故調査制度について医療者が知っておくべきこと」、熊本県保険医協会、於くまもと県民交流館パレア
17. 2015 年、8 月、講演、「本年 10 月に施行される医療事故調査制度について」、静岡県立がんセンター、於静岡県立がんセンター

18. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度医療事故調査制度：医療者の人権と利益相反」、医療法人協会、於鹿児島市城山観光ホテル
19. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度について」、市立函館病院、於市立函館病院 講堂
20. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度の問題点について」、静岡市立清水病院、於静岡県立清水病院
21. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度について」、呉市医師会、於呉市医師会館
22. 2015 年、8 月、講演、「医療事故調査制度を行うにあたっての注意点」、群馬県医師会、於マリーキュリーホテル
23. 2015 年、9 月、講演、「医療事故調査制度における注意点」、静岡県病院協会、於アザレア
24. 2015 年、9 月、講演、「医療従事者に求められる守秘義務」、日本精神科看護協会、於日本精神科看護協会 京都研修センター
25. 2015 年、9 月、講演、「医療事故調査制度への対応」、済生会中央病院、於東京都済生会中央病院
26. 2015 年、10 月、講演、「医療事故調査制度について」、神奈川県医師会、於横浜ベイシェラトンホテル&タワー
27. 2015 年、10 月、講演、「医療事故調査制度について」、聖隷浜松病院、於聖隷浜松病院
28. 2015 年、10 月、講演、「医療事故調査制度について」、岡山県保険医協会、於岡山国際交流センター
29. 2015 年、10 月、講演、「医療事故調査制度について」、すずかけセントラル病院、於すずかけセントラル病院
30. 2015 年、10 月、講演、「医療安全管理」、山形県保険医協会、於なの花ホール
31. 2015 年、10 月、講演、「医療安全管理について」、静岡市立総合病院、於静岡市立静岡病院
32. 2015 年、11 月、講演、「医療事故調査制度の仕組みと課題について」、大分県保険医協会、於ホルトホール大分
33. 2015 年、11 月、講演、「アドバンスケアプランニング講座」、於目黒区中小企業センター
34. 2015 年、11 月、講演、「院内対立を招かないために一利益相反関係と院内対話の重要性」、医療法人協会、於東医健保会館
35. 2015 年、11 月、講演、「医療事故調査制度における注意点」、静岡県保険医協会、於静岡駅ビル パルシェ 7 階会議室
36. 2015 年、11 月、講演、「医療法学のすすめ」、東京都特別区職員研究所、於中央区役所本庁舎
37. 2015 年、11 月、講演、「新しい医療事故調査制度について」、沼津医師会、於沼津医師会館
38. 2015 年、12 月、講演、「医療事故調査制度の課題」、浜松医療センター、於浜松医療センター
39. 2015 年、12 月、講演、「新たな医療事故調査制度への対応」、兵庫県民間病院協会、於兵庫県民会館
40. 2015 年、12 月、講演、「糖尿病領域の医療裁判事例に関して」、名古屋大学、於名古屋大学
41. 2016 年、1 月、講演、「医療法学のすすめ」、東京都特別区職員研修所、於中央区役所本庁舎
42. 2016 年、2 月、講演、「医療安全を学ぼう」、大阪医療法勉強会、於本町南ガーデンシティビル
43. 2016 年、2 月、講演、「医療安全を学ぼう」、愛知県医師会医療安全対策委員会勉強会、於名古屋 東急ホテル
44. 2016 年、2 月、講演、「医療安全を学ぼう」、神奈川県医師会、於ベイシェラトンホテル横浜

45. 2016 年、3 月、講演、「介護訴訟をどう戦うか」、全国老人保健施設協会、於ホテルニュー赤尾

46. 2016 年、3 月、講演、「科学としての医療安全」、富士宮市立病院、於富士宮市立病院

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

1. 医学教育学会、山本実果、優秀演題賞、2015 年 7 月
2. 医学教育学会、横田菜々子、優秀演題賞、2015 年 7 月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 2015 年 6 月 14 日 医療現場の法律 学問確立 読売新聞
2. 2015 年 12 月 25 日 開始 2 ヶ月で報告 45 件 医療事故調査制度 全国保険医新聞